

2022年4月2日

福井県内科医会学術講演会 特別講演 II

「COVID-19 の診断と治療」

演者：酒巻一平先生（福井大学医学部 感染症学講座教授）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2019年12月、中国湖北省・武漢市で初めて確認され、世界的なパンデミックに至りましたが、この2年間、国内でも診断のための検査の普及や、治療の進歩は目を見張るものがありました。SARS-CoV-2 検出のための検査は当初 PCR 検査のみで、しかも我が国の検査の許容能力は世界的にも極めて乏しく、第1波では多くの死者も認め混乱をきたしていた時期もありました。しかし、PCR の検査体制が検査室を有する基幹病院でも普及し始め、その後、特殊な測定機器を用いた抗原定量検査である化学発光酵素免疫測定法やイムノクロマト法を用いた簡易な抗原定性検査が開発され、多くの施設で使用されるようになりました。現在ではこれらの検査の特徴が理解され、状況に応じて選択されています。

治療では、抗ウイルス薬（レムデシビル）や抗体カクテル治療薬（カシリビマブ/イムデビマブ）が開発され、重症化例ではこれらの薬剤に免疫抑制や抗凝固を組み合わせる治療体系が整ってきました。COVID-19 も症例を重ねていく中で、病態も次第に明らかになり、早期診断のもと早期治療としての新たな抗体療法（ソトロビマブ）や経口抗ウイルス薬（モルヌピラビル、ニルマトレルビル/リトナビル）の開発もあり、有効性の高い治療も実施可能となってきました。変異株の出現による感染力や重症度の変化もありましたが、これまで第1波から第6波までの経験を重ねる中で、COVID-19 に対する検査や治療の進歩は患者救命のために大きな役割を果たしたものと考えられます。

本講演後、多くのご質問を会場ならびに Web 上で頂きました。臨床現場でのタイムリーなさまざまな疑問に、的確にお答えいただきましたことをご報告申し上げます。

（福井大学医学部附属病院 感染制御部・感染症膠原病内科 岩崎博道）